

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	産業建設常任委員会 (意見交換会)		会議場所 第3委員会室
			担当職員 三宅
日 時	平成28年7月26日(火曜日)	開 議	午前 10 時 05 分
		閉 議	午前 11 時 10 分
出席委員	小島、並河、齊藤、菱田、藤本、明田、湊		
出席者	【亀岡市商店街連盟】 仲井会長、松本副会長、服部副会長、井尻副会長、茅葺専務理事		
	【産業観光部】内田部長、【ものづくり産業課】野々村課長、三宅副課長		
出席事務局	門事務局長、三宅主任		
傍聴者	市民1名	報道関係者 名	議員1名(竹田)

意 見 交 換 会 概 要

10:05

議題(1) 商業活性化に係る状況把握
(会議を休憩して実施)

[亀岡市商店街連盟・産業観光部入室]

1 開会

亀岡市議会産業建設常任委員会委員長あいさつ
(小島委員長あいさつ)

亀岡市商店街連盟会長あいさつ
(仲井会長あいさつ)

2 出席者紹介

(各自、自己紹介)

3 意見交換

(1) 商店街連盟より説明
(別紙資料に基づき説明)

~ 10:30

(2) 委員との意見交換

< 湊委員 >

基本は個々の商店の努力によるものと考えているが、その中で行政はどのようなことができるのかが大きな課題であると捉えている。近年、消費者の購買動向が大きく変わっており、10年ほど前の商業動向に係る調査結果からも、衣料品や日用品等は市外へ購買が流れており、主に食料品等は地元で購買されているが、当時で約200億円の規模の流出が表れていた。現在ではネット販売等も普及し、より大きな規模での消費流出が見込まれる。市内消費を促進することにより、商業活性化につながるものと考えている。

行政でできることとして、例えば、市内国道沿線では大方9割が市外業者であり、ほぼ市外からの仕入れをされている状況から、特に食料に関しては、地産地消、安全安心の観点からも地元消費を条件として、許可等を行う条例を制定することなどができないものかと考えている。私も過去には質問等で取り上げたことがあるが、そのあたりについて、行政と前向きに進められるよう詰めていくべきではないか。

<小島委員長>

本日はオブザーブとして産業観光部にも出席いただいている。意見等があれば。

<産業観光部長>

その方向がどのように具体化していくのか、今後の懇談等を通じて理事者とも調整していきたい。

<明田委員>

解決策として条例制定を提案されている中では、市民1人100円の基金で800万円の資金化を要望されているが、現状で、市から補助金が充てられている状況を考慮する中で、何とかそれを工面できるのではないかと感じた。それは、条例で市民に求めるということは、それを使ってやりきるという考えがどの程度あるのかということであり、各商店街の状況からも中々難しいことがあるのではと考える。また、三方よしで取り組むとされているが、どちらかと言うと、商店街連盟の思いを中心に展開しようとする思いが強いと感じた。やはり、消費者に向けて、どのような魅力を打ち出し、市外消費を食い止めるのか、そのような策を考え方に含めていただきたい。

<齊藤委員>

解決策の要望1において、要望事項の2番目にされている、市、経済・商業団体の一体化を1番目にもつべきである。大型店、フランチャイズが来ようが、それは買い手の判断であり、何が来ようが自分の店で買ってもらえるという店づくり、そのしくみづくりが、商店街の維持・活性化につながるものと考えている。

各商店街、個店が知恵を絞ることが根幹である。大型店、インターネット等の普及は全国的な傾向であり、人口減少の中で売り上げを伸ばしていくことは、中々見込めない中、各商店が独自に客をつかみ、お得意様にしていくことが大切である。今までの経緯では、大型店が来たから各商店街にばら撒きのようなことをして、その受け皿としてきたようなことであったが、結局それでは自立できないということであり、交付金、補助金よりも先に、まず商店街がしっかりしていくことが大事である。

そのしくみづくりとして100円商店街や街バル等の取り組みは、素晴らしいことと考えており、今後、スタジアムへの来客を如何に商店街の中に散らばってもらえるのかということについても、そのようなしくみづくりを考えていく必要がある。

<湊委員>

100円商店街や街バルの取り組みの効果、リピート率は。

<ものづくり産業課長>

手元に資料を持ち合わせていない。

<湊委員>

どのような効果、リピートがあったのか、所見は。

<ものづくり産業課長>

確かに100円商店街については回遊者が増加した。

<湊委員>

そのリピートは。

<ものづくり産業課長>

そこまで詳細な統計は取っていない。

< 藤本委員 >

条例により市民から基金を課金する事例はあるのか、実際にそのようなことができるのか。執行部、商店街連盟の考えは。

< 産業観光部長 >

今、初めて提案を聞いた内容であり、その可否の判断については調整を要する。

< 仲井会長 >

これまでの高度成長期、人口増加の上り坂から、現在は人口減少等の下り坂にあり、未経験の中にある。経験がない、前例がないという時には、トップの英断、または、イギリスのように市民からのボトムアップの方法のどちらかとなる。私は、今こそその機運を興さなければならないと考えている。ボトムアップにより進め、議会にも理解いただき、消費者にも受け入れられるというハードルの高いことであり、前例のないことであるが、できればいいじゃないかという考えをもっていただきたいということが本日の趣旨である。ぜひともそのような考えでお願いしたい。

< 藤本委員 >

昨年度実施されたプレミアム商品券事業に係り、今年度については補助金がない中、独自に取り組むことで、10%を還元していこうという考えなのか。

< 仲井会長 >

昨年度、商工会議所、商業協同組合、商店街連盟の3者でカード化に取り組み、大きな反響を生んだものである。今回、国から予算が付かなくても、できる範囲で取り組んでいこうということを検討しており、国から予算が付いたときに備え、いつでもスタンバイできる状況にしていくことを3者間で協議している。

< 藤本委員 >

スタジアムの活用に係り、スタジアムの建設、亀岡駅北・駅南の開発の推進には積極的に取り組む考えか。

< 仲井会長 >

商店街連盟としては、それに関連した具体的な検討はしていない。関連団体の会合に参画する中で、協力していくということであり、単独では考えていない。

< 菱田委員 >

商業振興条例の取り組みには関心がある。ただし絵に描いた餅にならないよう、どのようにして効果をもたらせるのか、考えていきたい。傾向として、市外からの買い物客は多く、市内客よりも多額の買物をされているように見受けられる。そのような中、既存の商店街ではいかに個性を出すかという取り組みが必要となる。各商店が特色ある取り組みをされる中で、市民、行政、議会が応援していくようなこと、要は、まず自力を発揮されて、それを如何に応援していくかというシステムが大事であると考えている。

< 仲井会長 >

各委員の意見にあるように、我々が努力すべきことは当然にベースとしてあるが、中々対応しにくいということで、個店でできないことを商店街で、商店街でできないことを商店街連盟でバックアップしている状況である。そして、商店街連盟では不十分な点について他の商業団体と連携を図り、さらに行政のバックアップ、市民の支援をいただき、それに対してどのようなキックバックを行えるのかということであり、それについて今意見をいただいたように、個性を出して、値段競争ではなく、顔の見える関係で丁寧に対応することが大切であると考えている。

我々は、そのようなことに一生懸命取り組んでいくことを基本ベースとしたうえで、人口減少、消費人口減少が加速しており、努力が及ばないところまで来て

いる状況である。この先5年後を大変危惧している。転げ落ちる前に手を打っていききたいという思いである。

フランチャイズ店は地元への貢献度が薄い。我々はそれに勝り、長年にわたり公共性の面で地元への貢献度が高い。そこを考えてもらいたい。

菱田委員の意見のように、個性を出してがんばるということを基本として、新たなしくみづくりに支援いただき、全国に自慢できるものにして、市全体の活性化につなげていきたいと考えている。

< 齊藤委員 >

プレミアム商品券事業に係り、昨年度カード化で実施されたことにより、顧客の年齢層、商品等を把握し、そのニーズを分析して、今後に活用していただきたい。そのような取り組みはされているのか。

< 井尻副会長 >

個別のデータは全て揃っているが、個人情報の関係から、どこまでオープンにできるのか、取り扱いが難しい面がある。例えばある個店の情報を各店で共有することにはいかない。各個店はそれぞれの情報を資料として受け取ることはできるので、それを生かして対策を講じることはできる。

< 菱田委員 >

業種や商店街ごとの分析は可能と考える。そのようなことにも活用願いたい。

< 仲井会長 >

カード化により迷惑をかけた部分もあるが、データ取りができるようになり、大きなメリットがあった。今後に生かしていきたい。また参加店の拡充に努めていきたい。

< 湊委員 >

カード化に関しては、店に買物に来られる形態のほか、店から出向いて商売される形態がある。実際に出向いて商売される場合にはカードは使えない。できれば両立できるような取り組みを行っていただきたい。

< 仲井会長 >

そのようなことも視野に入れている。紙ベースとカード化と両方できるようなことも検討していきたい。

< 藤本委員 >

特色ある商店街づくりについて、どのような取り組みをされているのか。

< 仲井会長 >

それぞれの商店街ではその地域にマッチした独自の取り組みに努められている状況であり、商店街連盟から具体的に指示しているようなことはないが、それらの取り組みをもっと効果的に引き上げたいと考えている。各地の商店街で成功されているところは、特徴としてアーケードがある。本市では地理的に不利であり、点在している。そこで条例制定による振興基金を生かしていきたいという考えである。このままではポツポツと消えていく。そうなる前に色々な意見を出し合いながら条例制定に取り組むことで、5年後、10年後には、商店街があつてよかったと言われるようなものになると考えている。

< 小島委員長 >

条例制定による先進的な取り組みの必要性、また、各商店街独自の努力等に関わる意見が交わされたが、今後もこのような機会をもつことができると考える。時間の都合上、意見交換は以上としたい。

4 閉会

亀岡市議会産業建設常任委員会副委員長あいさつ

< 並河副委員長 >

本日の意見交換に感謝申し上げます。

意見交換を通じて多くの共通点があった。今後、高齢化が進む中、買物難民と言うのが大きな課題となつてこよう。高齢者の移動範囲は500mと言われており、そうした中で、どうしても商店街は必要であると考えている。商店街が疲弊するとまちの活気がなくなる。地元の商店は社会的な貢献も高い。大型店と共存できるようなくみづくりが必要であり、本日のような意見交換の機会をまた次回に持てれば、少しでも前進するものとする。

< 小島委員長 >

以上をもって、意見交換会を閉会する。

11:10

(閉会后、常任委員会の会議に切り替え)